

◆道農民連盟 西原正行委員長

バランス良い輪作ベースに



道農民連盟
西原正行委員長

ー今年の営農を振り返って。

難しい天候で、畑作は特に厳しかった。6月上旬までは高温が続いたが、それから良くなかった。小麦の収穫時期に雨は降らなかったものの、気温が高すぎて細麦(さいばく)傾向だったり、ジャガイモの葉が早く枯れ上がったりして収量が伸びなかった。

ー農家ごとで生育の差が大きかったようだ。

豆類は播種(はしゅ)の時期で差が生まれた。3日違っただけで収量に大きな差があった畑もある。小豆は特にばらつきが大きく、歯がゆい年だった。

ー天候は酪農にも影響した。

牧草は刈り遅れで栄養価が低かったが、思ったほど生乳生産量には影響していない。ただ、飼料用トウモロコシは収量が上がりず、輸入に頼らなくてはならない。年越しあたりから経営への影響が大きくなる。

ー大規模停電もあった。

畑作物は倉庫が開かず出荷できなかったところもあったが、特に酪農の影響が大きかった。農家は自家発電を導入して備えを進めている。出荷先も災害に耐えうる体制を取ってもらえるようお願いしたい。

ー取扱高は3000億に到達する見込みだ。

酪農、畜産の下支えが大きい。畑作も輪作のバランスが取れてきている。根菜類の作付けが多かったが、最近では豆類も増え、リスク分散されている。近年の取扱高安定に寄与していると思う。バランスの良い輪作をベースに野菜栽培や加工に挑戦するのが大事だ。

ー今年は国際農機展が開催され、ICT(情報通信技術)による省力化が注目された。

自動操舵(そうだ)のトラクターを使っているが、夜遅くまで作業できるようになり重宝している。長期的には人手不足解消に向かうのだろうか、現状では収穫などでまだまだ人が必要。出入国管理法の改正で外国人に期待している農家もいると思うが、一気に増えすぎること文化の違いによるあつれきなども心配される。

ーTPP11や日欧EPAの発効も迫り、来年には日米物品貿易協定交渉も始まる。

国がいくら対策を打っても、外国産が増えるのは間違いないし、価格も下がる。生産コストが上がる中で経営が成り立つのか、国産の優位性が保てるのか危機感がある。経営に影響が出てくるので反対の声を上げなくてはならない。

にしはら・まさゆき

1963年上士幌町生まれ、55歳。帯広農業高校卒業後、就農。畑作4品やナガイモなどを育てる。2015年2月から全十勝地区農民連盟委員長、17年2月から北海道農民連盟委員長。

◆サンエイ牧場 辻本正雄代表

排熱利用し新たなチャレンジ



サンエイ牧場
辻本正雄代表

ー今年は飼料用作物の作柄が思わしくない。

6月下旬からの長雨が影響した。1番牧草はその前に収穫することができ、品質はまずまずだったが、飼料用トウモロコシの収量が減少した。長雨で気温が低下し、生育障害が出たようだ。トウモロコシはここ4年ほど

作柄が悪い年が続いている。台風が相次ぐなど気象の変化が大きい。

足りない分は輸入飼料などに頼らざるを得ない。餌の栄養価が不足していると乳量が減るだけでなく、繁殖に影響したり病気にかかりやすくなったりする。飼料の外部調達によって牧場の収益は悪化する。

また、乳牛160頭分の牛舎を新設して生乳生産量を増やす計画だったが、建設業界の人手不足などから完成が遅れている。今年度の生産量は、前年度から微増にとどまりそうだ。

ー今月30日にTPP11が、来年2月にも欧州連合とのEPA(経済連携協定)が相次いで発効する。

チーズなど乳製品は、輸入品に押される形で国産品の需要が減る恐れがある。半面、中国やアジアで乳製品の消費が増えており、欧州産チーズなどは思ったほど日本に入ってこないことも考えられる。関税撤廃が消費にどう影響するのかは、ふたを開けてみないと分からない。酪農家としては継続して生乳を生産する体制を維持するだけだ。

ー胆振東部地震で生乳廃棄を余儀なくされた。

約2400頭の乳牛を飼育しているが、地震後の停電が46時間も続いた。ディーゼルの自家発電機を動かし、停電中も搾乳を続けたが、生乳を受け入れる工場が稼働を停止したため約80トン分が廃棄となった。幸い、ホクレンが被害額の5割を支援すると表明した。さらに地元JAが、廃棄による損失を補うための支援金支給を決めてくれた。

ただ、今回の地震を踏まえて牧場内のバイオガスプラントを非常用電源として使えないか検討している。現在は固定価格買い取り制度(FIT)を活用し、バイオガスで発電した電気を売電している。

また発電時に発生する排熱を利用し、新しいことにチャレンジしようとしている。鹿追町のチョウザメのように、町の特産品になるようなものにしたい。

つじもと・まさお

1958年大樹町生まれ、60歳。帯広農業高校卒、本別の農業大学校を経て就農。近隣酪農家と94年に設立したサンエイ牧場の3代目の代表。